

## 令和6年度 北海道小学校長会地区活性化支援事業【実践事例レポート】

- 1 報告地区：渡島地区
- 2 事例報告学校名：森町立森小学校
- 3 報告者職・氏名：校長 伊藤 明彦
- 4 キーワード：持続可能な学校経営

### 1 はじめに…学校の紹介

森小学校は、明治8年に長谷川常永が森教育所として開校し、先人の努力と愛郷、愛校の精神に支えられた地域の情熱のもと、百余年の有史を刻む学び舎として発展してきた。

現在、秀峰駒ヶ岳のふもと恵みの多い内浦湾に抱かれた緑多い森町で、児童336名が学んでいる。児童一人一人のよさをさらに広げ、将来にわたって一人の人間として力強く生き抜いていく力や社会の一員としての役割や責任を担う力を子どもたち一人一人が身に付けていけるような教育活動を目指して、職員39名が一丸となって取り組んでいる。



### 2 実践の概要

#### (1) 安心・安全な学校

##### ①子どもたちの安全・安心を生み出すために

学校生活における子どもたちの不安や悩みを早期に発見し、解決の見通しをもつことは、子どもたちの心理的安全性を確保するとともに、保護者からの学校への信頼を得るためにもとても重要である。そのため本校では、積極的な生徒指導と積極的・受動的な教育相談の活用に取り組んでいる。

日常的に四つの生徒指導の実践上の視点を取り入れた授業を推進し、組織的・計画的なアセスメントを実施することで、早期に児童の不安や困り感に気付くことができるようにしている。

#### ■積極的な生徒指導と積極的・受動的な教育相談の活用

- ・（全児童対象）年2回の個人面談
- ・（全児童対象）年2回のアセスメント実施
- ・（全児童対象）年2回のいじめアンケート

◎上記をもとにした「森っ子ファイル」作成、「森っ子ファイル」をもとにした計画的な教育相談の実施

#### ■アセスメントに基づく学習指導と生徒指導

- ・学習指導、生徒指導における客観データの活用
- ・共通チェックリストの活用
- ・相談計画の作成

#### ●教育相談実施数【65件】（4月～9月、のべ370人の教職員で対応）

生徒指導……20件

学習支援、特別支援、通級……12件

長期欠席……24件（R5長期欠席26名→R6前期終了時点9名）

##### ②教職員の心理的安全性を生み出すために

上記の取組を通して、保護者対応を教育相談として常に複数体制で実施することで、担任を持つ教職員の負担を削減することにつなげている。また、その他にも副担任制や学年内の交換授業

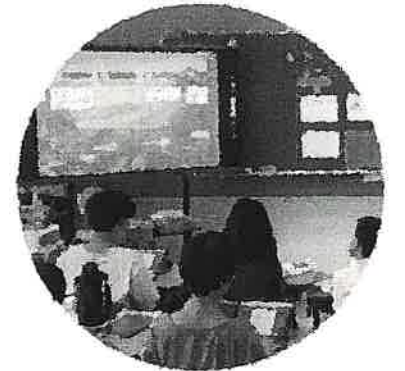
の実施、専科教諭の配置等で、教材研究を焦点化し、授業準備を軽減する取組を行っている。学級担任の業務を部分的にでも複数で担当することで、共有、相談の機会が増え、心理的な負担感を軽減するとともに、教師同士の研鑽により資質の向上にもつながっている。

#### (2) ICTを活用した授業改善

一人一台端末の整備が進められ、今年度、森町にはA Iドリル（Qubena）や電子黒板が導入された。ICTを活用した学びが、日常の教育現場で進んでおり、このような環境の中で、これまでの「与えられた知識を覚える学び」から、「自ら考え、課題を解決する力を育む学び」への移行が求められている。この変化は、子どもたちがこれから直面する未知の未来に備えるために欠くことができないものであり、A Iやテクノロジーの進化が加速する中で、どのような職業に就くとしても、自ら学び続ける力が重要になってくる。

本校では昨年度より「新しいかたちの学びによる授業改善推進事業」の指定を受け推進教員を中心に全職員が一体となって取り組んでいる。これは、ICTの効果的な活用を通じた「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実による主体的・対話的で深い学びの実現を目指したものである。

タブレット端末やA I学習アプリ等のICT環境を活用することで、教師からの一方通行の授業だけでなく、子どもたちは自分のペースで学びを進めたり、グループ活動やディスカッションを取り入れたりするなど、「問いを自分ごととして捉え、試行錯誤し、解決策を見出す」プロセスを楽しみながら、自らの意見を表現し、他者と協働し学んでいく力を身に付けてきている。



#### ■令和5年度、特に重点的に取り組んだ内容

- ・児童生徒が目的意識をもって自ら学習活動を進めることができるようにする工夫
- ・授業との関連を図った家庭学習の工夫

#### ■令和6年度、特に重点的に取り組む内容

- ・児童生徒同士が教師とやりとりする場面での活用
- ・児童生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面での活用
- ・授業や授業以外におけるMEWCBT等の学習アプリの効果的な活用

### 3 終わりに…「安心・安全な学校」から「元気な・楽しい学校」へ

子どもたちの「可能性」と「成長」を引き出していくためには、心理的安全性は欠くことのできない要素だと考える。それは、保護者・教師にとっても同様である。今年度は、子どもが安心して通える学校、保護者が安心して任せられる学校、教師が安心して仕事ができる学校を目指して、組織、取組を整理してきた。

今後は、この安心・安全を基盤に『元気な・楽しい学校』（子どもたちが、毎日「今日も学校楽しかった」「早く明日にならないかな」と思える学校）を目指して、教育相談、授業改善、教育活動の充実を図っていきたい。